



情報技術委員会の取組みと Web-EDI認定状況、 ASP間連携ガイドのご紹介

情報技術委員会



1. 情報技術委員会の取組み

- 1-1. 多様化するEDI方式
- 1-2. EDI標準と情報技術委員会の活動対象
- 1-3. 現状の課題と07~09年度の取組み
- 1-4. EDI共通基盤における
07~09年度の取組み

1-1. 多様化するEDI方式

EDI大分類	EDI小分類	通信プロトコル
◆従来型EDI	ファイル転送型EDI ・CII	全銀手順 JCA手順等
◆インターネットEDI	ファイル転送型EDI ・CII ・XML	全銀TCP-IP FTP手順等 ebMS等
	メール型EDI	SMTP/MIME等
	Web型EDI	HTTP/HTTPS等

企業間での大量データ交換による効率化から目的が多様化
 ⇒ビジネスプロセスの自動化 ⇒情報提示、共有
 ⇒EDI化率up(少量データ交換、100%EDI化)

1-2. EDI標準と情報技術委員会の活動対象

標準化レイヤー		内 容
ビジネスプロセス (業務モデル)		・ビジネスシナリオ ・業務運用規約 等
標準メッセージ		・XML ・C I I
EDI共通基盤 (情報伝達のためのインフラ)	プロセス制御	・BPSS (必要に応じて選択)
	EDI転送	・ebMS、全銀手順 等 ・ASP相互接続/運用標準

- ・国際標準・国内標準・業界標準の優先順位で採用検討
- ・業務運用環境、ネットワーク環境を考慮した標準化推進

1-3. 現状の課題と08-09年度の取組み

【現状の代表的課題】

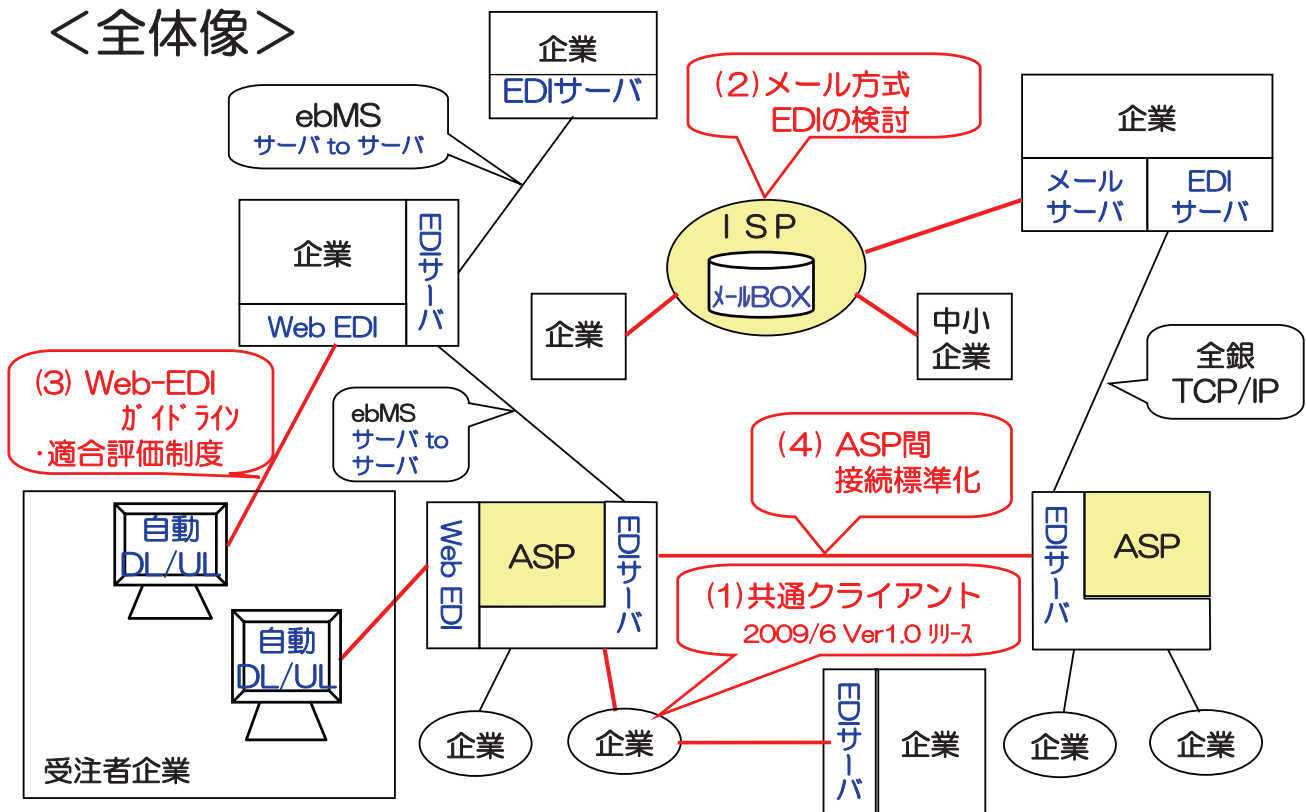
- ・ebXML/ebMSサーバへの投資対効果が見えない
- ・プロセスを自動制御できるほど業務が標準化されていない ⇒ BPSSでは対応できない
- ・複数ASP接続の懸念／接続プロトコルの相違
- ・Web-EDI進展による業務システム自動連携の弊害
- ・環境など新たなEDI領域への取組
- ・中小企業導入にはコスト高

【09年度の活動】

- (1) ASP間連携ガイドライン作成
- (2) REACH規則対応、環境情報対応実証実験の実施
 - ・JEITA共通クライアント ebMS3.0対応 Ver1.0リリース
 - ・環境情報対応実証実験の実施 第1弾:7月~9月実施予定
- (3) JEITA Web-EDI認定審査

1-4. EDI共通基盤における07~09年度取組み

＜全体像＞

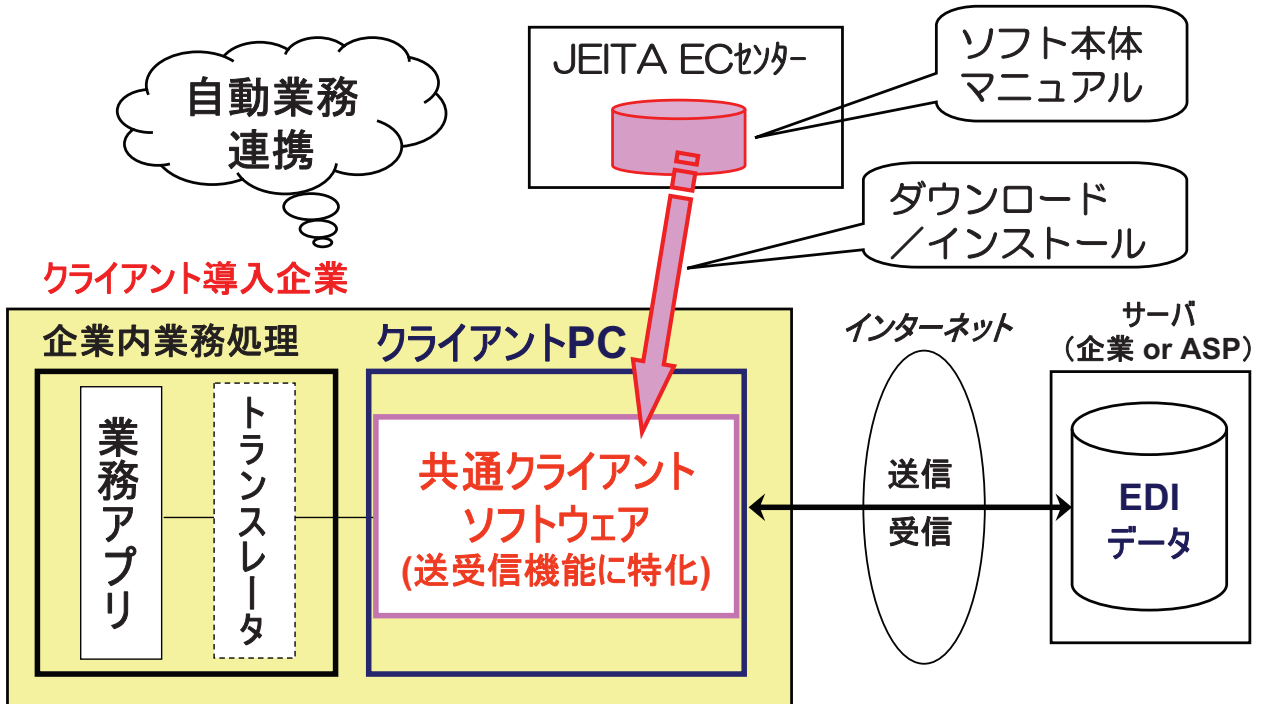


2. JEITA共通クライアントの概要

- 2-1. JEITA共通クライアントの位置付け
- 2-2. JEITA共通クライアントの機能概要
- 2-3. JEITA共通クライアントの入手方法

2-1. JEITA共通クライアントの位置付け

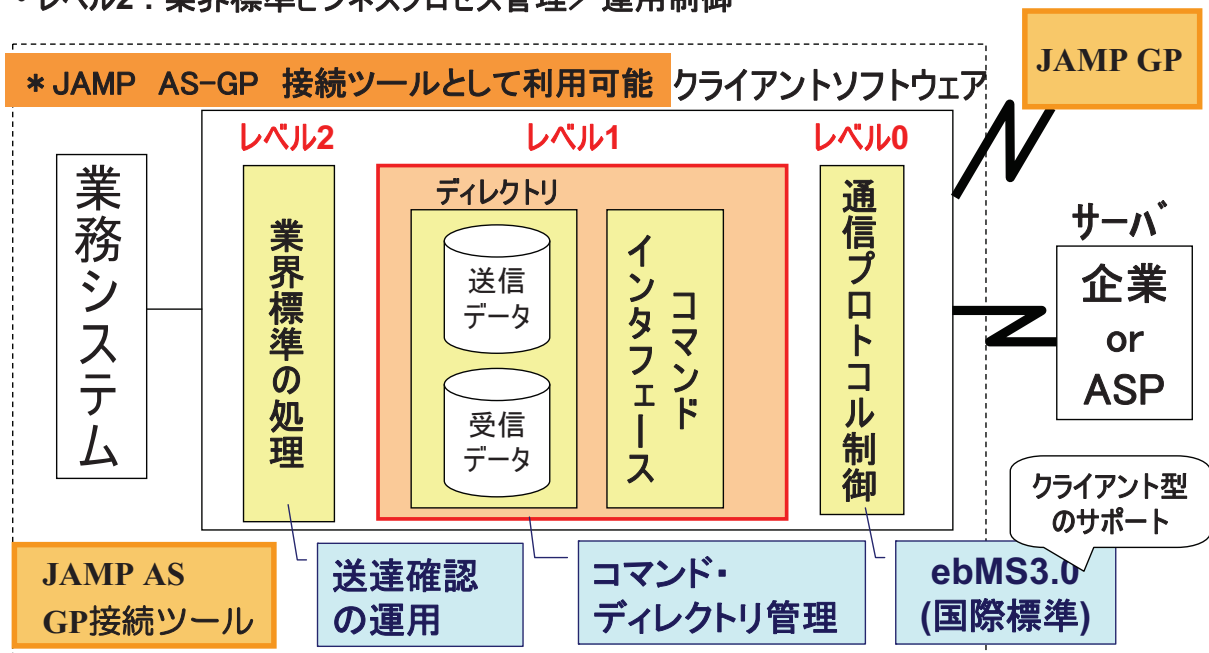
- ◆ ECALGA 2007A に標準通信プロトコルとして追加
- ◆ ソフトウェアの無償提供⇒安く、容易に



2-2. JEITA共通クライアントの機能概要

◆ ソフトウェアの機能概要

- レベル0：通信プロトコル制御⇒国際標準ebMS3.0(Pull型)準拠
- レベル1：送受信コマンド制御とファイル管理
- レベル2：業界標準ビジネスプロセス管理/運用制御



2-3. JEITA共通クライアントの入手方法

- 動作環境: ebMS3.0対応正式版6月3日リリース WINDOWS 2003 SP1,0,2.0 XP SP2.0
- 利用範囲: 国内利用に限定します。
- 費用: 無償
- D/L手順:

JEITA HP より、共通クライアントソフト
D/Lページに遷移し、利用規約の内容に
同意の上、名刺情報を入力しD/L下さい

The screenshot displays the JEITA website interface for downloading the common client software. It features a registration form with fields for company name, position, name, and address. A diagram illustrates the data flow between the client PC, the internet (ASP or full network), and EDI data. A red box highlights the download link for the common client software.

10 All Rights Reserved, Copyright © 2008 JEITA

ECA/IGA

3. JEITA Web-EDI認定活動状況

3-1. 認定制度の概要

3-2. ガイドライン紹介ホームページ

3-3. 認定状況

3-4. 申請に関する注意事項

* JEITAではWEB-EDI標準認定の申請をベンダー、利用者双方よりお待ちしております。

11 All Rights Reserved, Copyright © 2008 JEITA

ECA/IGA

3-1. JEITA Web-EDI認定制度の概要

目的	JEITA Web-EDIガイドラインを遵守戴き、EDIの普及促進を図る
申請単位	Web-EDIのサービス単位
審査方法	Web-EDIガイドライン 認定基準チェックシート(47チェック項目)を提出していただきJEITA情報技術委員会にて審査
認定されると	<ul style="list-style-type: none">・JEITAより、認定されたWeb-EDIシステムで利用可能な認定マークを、また印刷物へ 利用可能な認定マークを発行いたします。・JEITA ECセンターホームページで、認定されたWeb-EDIシステム名称を公開し、申請会社の標準化に対する貢献を広くアピールします。
費用	無 料(但し、2年毎の更新申請が必要です)
開始時期	2008/07/1 スタート

3-2. JEITA Web-EDIガイドライン紹介HP

【JEITA ECセンター Web-EDIガイドライン紹介ホームページ】

:申請に必要な下記情報を掲載しています

URL: <http://ec.jeita.or.jp>

- 認定制度の目的
- 各種申請手続き手順のご紹介
 - ・新規登録申請手順について
 - ・更新申請手順について
 - ・登録内容変更申請手順について
- 認定マークご利用上の注意
- 申請に必要な各種資料
 - ・認定申請書および認定申請書記入例
 - ・チェックシートおよびチェックシート記入例
- 認定企業一覧

認定マーク



業界の活性化、企業活動の効率化のためにガイドラインの遵守を
御願いとすると共に、たくさんの認定申請をお待ちしております

3-3. 認定状況('08/7/1~'09/6/30)

— 1年で13社14システムの申請を受け審査を実施 —

■認定受付件数: 13社 14システム

- ・自社開発システム: 1社
- ・パッケージソフト: 5社
- ・ASPサービス: 8社

■認定結果: 上記申請案件全件(一部条件付)

■認定システム利用ユーザ(推定)

- ・WEB-EDI利用発注企業社数: 約 305社
- ・WEB-EDI利用受注企業社数: 約 11000社

■認定企業一覧: http://ec.jeita.or.jp/web_edi/corporate_list.html

(株)日立製作所、富士通(株)、日本電気(株)、大興電子通信(株)
三菱電機情報ネットワーク(株)、(株)オーガス総研、NECソフト(株)、
京セラ(株)、TDK(株)、KOA(株)、(株)オネスト、キヤノンITソリューション(株)

3-4. 申請に関する注意事項

— 適合審査の過程で散見される注意、気付き事項 —

■ECALGA規定以外のメッセージ、項目の多用

■各種標準帳票の標準外利用

- ⇒特に納品書に多く、標準を標榜しながら違う様式の帳票を出力
- ⇒標準納品書が出ない

■データのアップロード機能を備えているサービス、パッケージが少ない

■ユーザへの通知機能(新着、エラー通知等)など運用支援機能に差が見られる

■ECALGA(旧JEITAメッセージ標準)のVersionが古いもののみに対応

- ⇒2A~2Dなどが多い

■WEB-EDIのみの機能では満足しない

- ⇒FILE転送型(従来VAN型EDIの補助手段としてのみ利用許可)

■パッケージでは、ANY-TO-ANYのトランスレータなど機能重視で標準を守る意志が見られない

■XML形式のデータを扱えるWeb-EDIは極めて少ない

4. ASP間運用標準ガイドラインの概要

- 4-1. ASP間運用標準ガイドラインとは
- 4-2. ASP間運用標準化の対象範囲
- 4-3. ASP間運用標準：通信手順
- 4-4. ASP間運用標準ガイドラインの内容

4-1. ASP間運用標準ガイドラインとは

- **位置付**: 「JEITA/ECALGA標準書」と「ECALGAサーバ実装ガイドライン」の補足ガイド
- **狙い**: 複数ASPの接続を通して、ユーザが業務を遂行するための、ASP間の運用のガイド
- **内容**: ASP間接続の運用規定として、システムルール、運用ルールの二種類を規定した。

システムルール:

「ECALGAサーバ実装ガイドライン」の延長上に、ASP間における実装上の運用規定

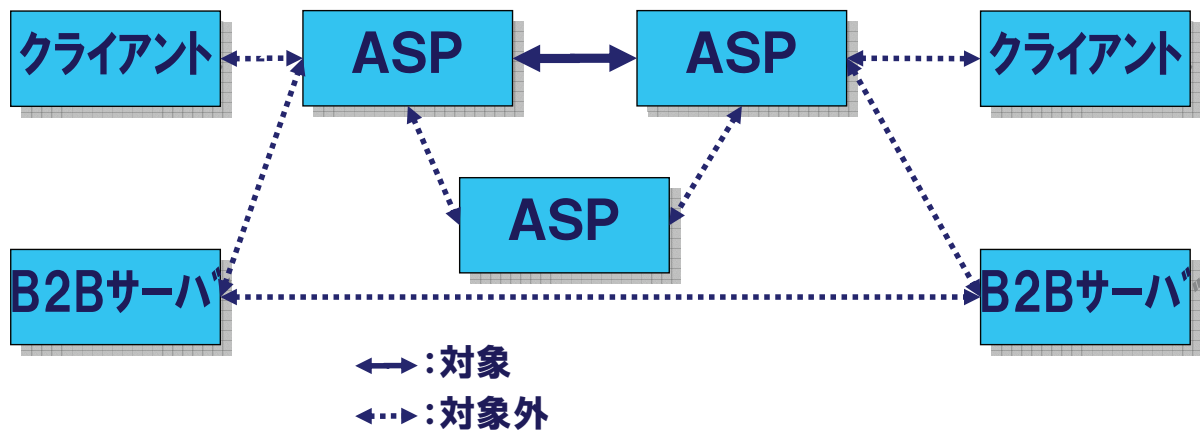
運用ルール:

「ECALGAサーバ実装ガイドライン」や「本ガイドのシステムルール」のASP間運用規定



4-2. ASP間運用標準化の対象範囲

- 標準化範囲:当初は、ASP-ASPユーザ間は含まず、ASP間のみとする。
- 実際の運用上ではASP間接続は3者以上の接続も発生するが、ECALGAの通信手順では2者間のシステムについて標準化対象とする。
- ガイドラインでのASP:
企業のEDIを行うB2Bサーバ(ECALGAの通信手順に準拠したサーバシステム)を代行するサービス機能である。



4-3. ASP間運用標準:通信手順

- 通信として、ebMS3.0接続(当面、クライアント・サーバ接続が中心)を追加
- 複数ファイルをアーカイブして1ファイルにし、第二MIMEパートに添付することができる。このとき、アーカイブはアプリケーションに任せる。
- 複数ファイルを第二MIMEパート以降に添付することもできる。このとき、ファイル名をMIMEパートで引渡すことができる。

		添付ファイル対応		
通信方法		1ファイル目	2ファイル目以降	
1	ebMS 2.0	サーバ・サーバ	第二 MIMEパート	1ファイル目に アーカイブ
		サーバ・サーバ (ファイル名引渡可)	第二の MIMEパート	第三以降の MIMEパート
2	ebMS 3.0	サーバ・サーバ	第二の MIMEパート	第三以降の MIMEパート
		クライアント ・サーバ		

4-4. ASP間運用標準ガイドラインの内容

システムルール記載内容

- 1.通信手順
 - ・ebXML手順 (ebMS2.0, ebMS3.0)
 - ・添付ファイルの扱い
- 2.ASP間での振分機能
 - ・ビジネスドキュメントヘッダの設定ルール
 - ・振分単位、CHK処理、処理エラー
- 3.転送機能
 - ・ASP-ASP間接続
 - ・ASP-ASPユーザ間接続
 - ・バッチ型転送機能
- 4.送達確認
- 5.CPA及びBPSS管理
 - ・CPA管理
 - ・BPSS管理利用方法
 - ・CPAとBPSSスキーマ利用方法

運用ルール記載内容

- 1.ASP間事前調整事項
- 2.責任分解点
 - ・責任分解点について
 - ・データ保存期間について
- 3.障害対応
 - ・障害発生タイミング
 - ・障害発生における想定事象と対処方法
 - ・ステータス通知について
- 4.テスト方法
 - ・テスト方法の流れ
 - ・ユーザ情報の交換
 - ・ASPサーバ情報の交換
 - ・CPAファイル作成とマスタ情報の設定
 - ・ASP間確認テスト
 - ・ユーザ間確認テスト

JEITA ECセンター 情報技術委員会では、

- ・ASP間運用標準ガイドライン発行時
JEITA ECセンターHPで報告するとともに、
ベンダー関係者向け説明会を実施する予定です。
- ・また、今後ともWEB-EDI標準認定の申請を
ベンダー、利用者双方よりお待ちしております。

ご清聴ありがとうございました。